

世界遺産通信

IN 三里小学校

vol.09

令和5年12月

～世界遺産学習全国サミット inたなべ～

和歌山県世界遺産センター発行

これまでの活動の集大成

12月10日(日)午前10時10分頃、発心門王子跡を出発点に三里小学校児童の語り部活動が始まりました。開会式で校長先生が「子どもたちが元気に発表します。」とお話をし、児童代表が「楽しみながらやりたいと思います。」と決意表明しました。初めは発心門王子の説明です。大きな声、ゆったりとした語り、間の取り方もよく、聞く側にとってとても聞き取りやすかったです。練習の成果が十分に感じ取れました。水呑王子、森のベッド、三里富士、そして、伏拝王子、三軒茶屋。語るメンバーを交代しながら、語り部活動は進んでいきます。一人ひとりの語りの技術の上手さもさることながら、語っているそばでパネルを掲示して、より分かりやすく工夫するなど、チームワークも素晴らしかったです。和泉式部供養塔前では、和泉式部の作った歌を、全員

で言葉を伸ばしながら披露してくれました。それを聞いていると、その時の和泉式部の参拝できない悲しい様子が目に浮かぶようでした。また、熊野権現の歌は、参拝していいんだよと言ってもらえた和泉式部の喜びが伝わってくるようでした。子どもたちは、語りの中に自分の思ったことなどを入れながら、オリジナルの語りをしていました。開会式で校長先生がおっしゃっていた元気な発表は、完璧にできていました。児童代表が言ってくれた楽しみながらやるということも十分にできていたと思います。



参加者の皆さんの声



参加者の皆さんからは次のような感想をいただきました。

- ・楽しかった
- ・説明が分かりやすかった。もう一度一緒に歩きたい。
- ・これからも田辺や日本の良さを世界に広げて行ってほしい。
- ・いっぱい勉強させてもらった。と言った声があり大盛況でした。

熊野本宮語り部の会松本茂子さんの話

「子供たちの、堂々とした発表姿が、凛凛しく、(りりしく)愛おしく、(いとおしく)嬉しく、思いました。三里っ子これからも、応援するね。

その輝く眼(まなこ)が希望です。ありがとう。」

1学期から何度も三里小学校に足を運んでいただき、語り部の役割、想い、各ポイントの語りについて子供たちと二人三脚となって取り組まれました。地域のお母さんのような存在で温かく見守る姿が印象に残っています。地域の目で子供たちの成長を見届ける素晴らしい地域だと改めて思いました。

堂々とした本大会発表

サミット本大会では、元気な声で、皆さんに伝わるように丁寧に、写真等を映し出しながら、それぞれが学んできた熊野古道の語り部を実践していました。まるで熊野古道を歩いているような時間となりました。この晴れの舞台で物怖じせず堂々とした発表には、感動し、気づけば大きな拍手を送っていました。この日まで一生懸命取り組んできた姿を披露するまでの努力は大変だったと思いますが今後の人生において大きな自信になったことと思います。



世界遺産学習全国サミットでの発表